

G30日本語教育 2020年度報告

国際教育交流センター国際プログラム部門

初鹿野 阿れ・徳弘 康代

1. 国際プログラム (学部) における日本語科目

国際プログラム (学部) は秋入学であるため、本稿では2020年度、G30国際プログラム (学部) の必修科目である日本語科目の報告として、2019年10月入学の1年生の後期 (春学期) 日本語科目と、2020年10月入学生の前学期 (秋学期) 日本語科目について述べる。

春学期日本語科目 (「総合日本語2・日本語セミナー (コミュニケーション) 2」または、「アカデミック日本語」2, 4「ビジネス日本語」2, 4) を履修した1年生は33名であった。本学期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての授業をオンラインで行った。初めての経験であり当初は混乱が予想されたが、ほとんどの学生がうまく対処しており、ほぼ順調に授業が進められた。ただし、試験の実施方法には課題が残り、今後検討が必要であると考えている。

秋学期の開始にあたり、9月に新入生のためのプレースメント・テスト及び、日本語ガイダンスを実施し、日本語で単位を取る学生を適切なクラスに振り分けたが、これらもすべてオンラインで行った。入学前の日本語能力試験がコロナで中止になったこともあり、新入生42名はすべて、必修外国語として日本語を履修した。初級クラスが28名、中・上級クラスが14名である。学期中に3名がそれぞれの事情により退学した。それ以外の学生は必修日本語の単位を取得した。日本語能力試験による単位認定を申請したものは2名であった。

卒業生は日本及び海外の大学院へ進学する学生が多いが、少しずつ日本の企業に就職する学生も増えている。また、海外の大学院を修了後、日本の企業に就職する学生も出てきており、キャリア形成における日本語学習の重要性が増している。今後、新型コロナウイルスの影響による留学生採用の減少も懸念されている。留学生への就職支援の新たな在り方、オンラインの活用等を検討していく予定である。

以下は毎年開講されている授業科目の一覧 (コース名と主要教材) である。順序の都合から、秋学期を先にする。必修科目は1年次に行われるが、2年生以上で日本語を使って研究、就職を考えている学生にも、これらの科目は履修可能になっている。

また、アカデミック日本語とビジネス日本語は参加人数によって受け入れ可能な場合、NUPACE や院生、研究生、G30の大学院生なども受け入れている。

〈秋学期〉(2019年10月～2020年3月)

- 総合日本語 1a・1b
- 日本語セミナー (コミュニケーション) 1a・1b
『日本語初級1大地』
『Write Now! Kanji for Beginners』
- アカデミック日本語 (文章理解・文章表現) 1
『大学・大学院留学生の日本語1読解編』
『大学・大学院留学生の日本語2作文編』
- アカデミック日本語 (文章理解・文章表現) 3
『大学・大学院留学生の日本語3論文読解編』
『大学・大学院留学生の日本語4論文作成編』
- アカデミック日本語 (文章理解・文章表現) 5
『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』
- アカデミック日本語 (聴解・口頭表現) 1
『中級日本語で挑戦!スピーチ&ディスカッション』
- アカデミック日本語 (聴解・口頭表現) 3
『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』前半
- ビジネス日本語 1
『新装版ビジネスのための日本語』前半
- ビジネス日本語 3
『新装版商談のための日本語』前半

〈春学期〉(2019年4月～2019年9月)

- 総合日本語 2a・2b

- 日本語セミナー（コミュニケーション）2a・2b
『日本語初級2大地』
『Write Now! Kanji for Beginners』
- アカデミック日本語（文章理解・文章表現）2
秋学期と同じ教材の後半
- アカデミック日本語（文章理解・文章表現）4
秋学期と同じ教材の後半
- アカデミック日本語（文章理解・文章表現）5
秋学期と同じ教材
- アカデミック日本語（聴解・口頭表現）2
『もっと中級日本語で挑戦！スピーチ&ディスカッション』
- アカデミック日本語（聴解・口頭表現）4
『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』後半
- ビジネス日本語 2
『新装版ビジネスのための日本語』後半
- ビジネス日本語 4
『新装版商談のための日本語』後半

2. G30国際プログラムにおける日本語教育の意義と質保証について

2022年度のカリキュラム改定に向けて、大学教養科目における言語教育の意義とG30国際プログラム日本語科目の質保証について検討し、以下のようにまとめた。

(1) 大学教養科目としての言語教育の意義

新たな言語を学ぶということは、その言語の背後にある文化をも学ぶことであり、それは学ぶだけではなく自己の中に新たな文化を取り込むことである。そして、自己の内面に既にある文化と新たな文化が融合し、その人独自の文化を創出していくのが言語修得の過程である。人の思考の多くの部分は言語によって形成される。人は言葉によって考えることが多い。新しい言語を自分のものとすることによって、人は思考に新たな視点や広がりを持たせ、同時に深めることができる。これが大学教養科目としての言語教育の意義である。また、教養教育の視点からみた名古屋大学の国際化は、ただキャンパスに留学生が増えるということではない。留学生も日本人学生も個々人が内面に新たな文化を取り入れ、融合させ、独自の文化を形成する

ことにより、「〇〇人」ではなく、それぞれに異なる文化を内に持つひとりの「人」として世界にあるという視野を身につけた人となるという、個人の内面の国際化が目指されるべきである。

(2) G30日本語教育における質保証について

言語教育の意義が、学生の内面に新たな言語文化を形成し思考力を広げ深めることであるとすれば、名古屋大学における言語教育の質の保証とは、単に教員が優れた技術で質の高い教育を提供することの保証に留まるものではない。質の保証は教員の教育能力はもとより、学生の内面の成長への保証にも向けられるべきものである。つまり、G30日本語教育の質保証は、個々の学生が日本語を身につけ、自分の文化とし、日本語で考えを深められるレベルまで日本語を習得することを保証するものでなければならない。具体的に言えば、学生がそれぞれの日本語学修のゴールをそれぞれで決め、将来像を思い描き、そこに向かって学ぶことを教員は支援し、一人一人の学生をだれも落ちこぼすことなく、全員がAのレベルに達するよう指導を行い、学生が日本語で思考し、批判し、共感できる人へと成長することを継続して保証していくべきものである。

3. その他の活動

(1) 愛岐留学生就職支援コンソーシアム「留学生就職促進プログラム」ビジネス日本語講座

愛岐留学生就職支援コンソーシアムが行っている「留学生就職促進プログラム」のビジネス日本語講座のコーディネートをを行った。開講された講座は次の通りで、オンラインで行われた。

- 日本語能力試験対策講座 N1（春・秋学期、春・夏休み）
- 日本語能力試験対策講座 N2（春秋学期）
- 日本語能力試験対策講座 N3（秋学期）
- 日本語能力試験対策講座 N4（夏休み）
- 日本語能力試験対策講座 N5（春休み）
- 就活準備日本語講座（基礎）（春秋学期の土曜日）
- 就活準備日本語講座（実践）（春秋学期の土曜日）
- 日本語スピーキング力テスト（JSST）（年2回）
- ビジネスコミュニケーションのための日本語（春休み）

(2) 名大基金感謝の集い

2021年3月13日に名大基金感謝の集いが行われた。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、今年度は感染対策を行った上で、短時間で行われた。名大基金から奨学金を得ている留学生1名、日本人学生2名が感謝のスピーチを行った。留学生代表として、G30プログラムの学生が選ばれることが多く、毎回スピーチ指導を行なっているが、今年度の学生も非常に優秀で、素晴らしいスピーチであった。厳しいコロナ禍において、奨学金がどれほど支えになったかという感謝の気持ちが伝わるものであった。

